加

歷史

加賀毛針の起源は明らかではないが、加賀藩では武士の特権として 鮎釣りが認められていた。このため、武士が個々に工夫して鮎毛針を考 案し、また下級武士の内職としても作られていた。

明治7、8年(1874、1875)ごろ、釣りが一般に開放され、専業の釣り 針屋が営業を始めるようになった。明治23年(1890)には、内国勧業



博覧会に出品し、その美しさから高い評 価を受け、東京を中心に全国に販路を 拡大していった。戦時中、ぜいたく品とし て需要が落ち込んだが、近年の釣り人 口の増加で加賀毛針は根強い人気を 誇っている。

特色

疑似餌「ぎじえ」に見せる部分の原材料は、主に野鳥の羽毛を用い る。そして、ハリスは本テグスを用い、ハリスと針の接合部には 光明丹[こうみょうたん]と漆、金箔を使って接着し、毛巻 きには絹糸を使用する。このことが、水中でも長時間 の使用に耐える実用性に優れた針を作り出す 秘訣である。

加賀毛針は大切に扱えば、100匹 以上の鮎が上がると言われてお り、耐久性と同時に、針巻き師と 釣り人が針と釣果について絶え ず情報交換をし、改良を重ねてき た結果と言える。



The origin of Kaga's artificial fly fishing hook industry is unknown, but fishing sweetfish was a privilege for the samurai class in feudal times. It was a samurai who invented fly fishing hooks that looked like real flies. In the late 19th century, the general public started fishing, and in 1890, Kaga artificial fly fishing hooks were displayed at Industrial Expo and praised for their beauty. After the War, artificial fly hooks gained popularity as the fishing population

As the artificial flies serve as bait, real feathers from wild birds are used. The artificial flies are attached to strings with special glue, lacquer and gold leaf.

♦ 情報 INFORMATION

主な生産地 金沢市(Kanazawa City)

主な製品名

毛針、アクセサリー(Fishing flies, accessories)

主な生産者

加賀毛針の会(Kaga Artificial Flies Association) 〒920-0854 金沢市安江町11-35 TEL (076)231-6371

31